

令和3年8月16日

令和3年度病害虫防除技術情報（第7号）

和歌山県農作物病害虫防除所

イネいもち病の発生状況について

県北部および県中部の普通期水稻においていもち病（葉いもち）の発生がやや多くなっています。大阪管区気象台発表の1か月予報（予報期間：8月14日～9月13日）によると、期間の前半は気温の変動が大きく、1週目は気温がかなり低くなる見込みです。また、期間のはじめは平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。本病は気温20～25℃、多湿で日照不足の時に多発し、降雨が続く、窒素過多、過繁茂等の場合に発病が助長されます。葉いもちが発生している場合は、今後の気象条件により発生が更に拡大し、穂いもちに進展する可能性があるため、防除を徹底しましょう。

1. 対象作物 普通期水稻
2. 対象地域 県北部および県中部
3. 発生時期 5月～9月
4. 発生状況

- 1) 県北部および県中部の普通期水稻における8月上中旬の発生ほ場率は46%（平年24%）、発病株率は9.7%（平年6.3%）であった（表1）。

表1 8月上中旬の県北部および県中部におけるいもち病（葉いもち）の発生状況

	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和3年 (本年)	平年
発生ほ場率 (%)	17	17	13	21	63	46	13	13	8	33	46	24
発病株率 (%)	2.8	8.5	4.0	7.7	21.7	10.0	5.0	1.3	0.3	1.5	9.7	6.3

注) 平年：平成23～令和2年の平均

5. 防除上の注意事項
 - 1) 夏期の高温により発病は抑えられる傾向になるが、本病に適した気象条件になると発病が増加する可能性がある。ほ場をていねいに見回り、葉いもちの発生が認められた場合は、気象情報を考慮し防除を行う。
 - 2) 上位葉に葉いもちの発生が認められる場合は穂いもちに進展しやすいので、出穂期およびその後に降雨が続く場合は防除を徹底する。
 - 3) コシヒカリやキヌヒカリ等の発病しやすい品種の作付けほ場、多肥ほ場は、防除を徹底する。
 - 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300